

## 「主の祈りの山場」(2019. 6. 16)

～我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ～

毎週の礼拝で、あるいは諸集会で私たちは繰り返し主の祈りを祈る。呼びかけと結びの間に6つの願いがあり、前半3つは神の栄光を中心とした願い（御名の栄光、御国の到来、御心の成就）、後半3つは人の必要を中心とした願い（日用の糧、罪の赦し、試練・誘惑からの守り）である。



祈る中で、いつも心に引っかかるのが、後半の2番目、罪の赦しである。私はここが主の祈りの山場だと思う。ここを真実に祈り、越えていくことによって、主の祈り全体が豊かな恵みになると思う。では、何がこの願いを祈る時のハードルなのか。まずそれは、私たちが罪の赦しを願う前にすでに自分たちに罪のある人を赦していることが前提にされていることである。もし、誰かに対して赦せない気持ちでこの場面に臨む時、心からの祈りにならない。でも、主がいつも祈るようにと教えられたのである。それは、その都度、誰かを赦すようにと主が招かれているということである。そこで、誰かを赦せない自分がいる時、主の招きに応じて決意して、口だけでも、言葉だけでも、感情が伴わなくても、大胆に「〇〇さんを赦します！」と心で告白してこの願いを祈りたい。そうすると、やがて感情は後からノコノコついてくるから不思議である。

また、この祈りの第二のハードルは何か。それは我らの罪を赦してくださいと願う時の「罪」をどう自覚しているか、である。他人の罪はよくわかるが、自分の罪はなかなか気づかない。先日、マザーテレサの言葉が浮かんできた。「愛の反対は憎しみではなく、無関心である。」この世界には助けを求める方々が大勢いる。教会には寄付を求めるDMがたくさん来る。でも、ほとんど簡単に目を通すだけで処分してしまう。忙しくて、お金もないし、私も教会もお世話することができないからである。ハッとした。私達が祈る時の「罪」とは何か。それは「無関心」に置き換えられるのではないか。いや、もっとはっきり言えば「無視」である。私の「罪」を赦してくださいとは、私の「無視」を赦してください、ということである。神を無視し、隣人を無視している自分。一方自分も無視される痛みを感じている。私を無視する人を赦しますから、私の無視を赦してください。このように言い換えると、主の祈りのこの壁が消えて、心からの祈りになった。

この祈りがストーンと落ちるまで、随分時間がかかった。祈りは祈る事によってその意味が開かれる、ということだ。聖霊の導きに感謝！